岩井俊雄アーカイブ＆リサーチ

特定非営利活動法人コミュニティデザイン協議会

概要／課題

近年は絵本作家としても知られるメディアアーティスト岩井俊雄は、1980年代半ば以降、アートにとどまらず、テレビ番組、ゲーム、CGアニメーション、電子楽器の制作など幅広く活動し、文化庁が推進する「メディア芸術」の領域を横断する国際的に評価の高いアーティストである。しかし、岩井の作品や関連する資料は、これまで劣化の一途を辿っている。それらの整理・修復とデジタル化を進め、広く公開することによって、作品の再制作や再評価へつなげることは、次世代の創造活動とメディア芸術領域の発展を促すと考えられる。

体制／手法

岩井俊雄と明貫紘子（映像ワークショップ合同会社代表）が共同で、2021年に立ち上げたプロジェクト「岩井俊雄アーカイブ＆リサーチ」をベースにして、５カ年計画（2021-2025年）で実施することを予定している。本事業では、基本的に岩井が個人的に保管する資料を扱う。エンジニアやプログラマーなど専門家のアドバイスをもらいながら、作品の再制作のための技術的なガイドラインを作成していく。全体の事業管理は、特定非営利活動法人コミュニティデザイン協議会が担当する。

成果

（成果物）

- 坂本龍一×岩井俊雄《Music Plays Images X Images Play Music》(1996–1997)の再現展示
- 「時間層シリーズ」全作品（1985～90年）再展示およびインストールマニュアル作成
- 《映像装置としてのピアノ》(1995年)再展示
- 記録映像リストのアップデート
- 記録映像のデジタルファイル
- 紙資料リストのアップデート
- 紙資料のデジタルファイル
- プロジェクトサイトの公開
  https://www.eizo.ws/projects/iwai

《Music Plays Images X Images Play Music》展示風景

（公開方法）

- 「時間層シリーズ」全作品および《映像装置としてのピアノ》が展覧会「いわいとしお×東京都写真美術館　光と動きの100かいだてのいえ―19世紀の映像装置とメディアアートをつなぐ」（東京都写真美術館、2024年7月30日から11月3日）にて、関連資料とともに公開された。
- 「時間層シリーズ」および《映像装置としてのピアノ》の修復プロセスを明貫紘子が執筆し、写真美術館の展覧会カタログに日英バイリンガルで掲載。
- 坂本龍一とのコラボレーション作品《Music Plays Images X Images Play Music》が展覧会「坂本龍一｜音を視る 時を聴く」（東京都現代美術館、2024年12月22日から2025年3月30日）にて公開。＊昨年度、本事業で見つかった記録映像をデジタル化した素材を使用。

（課題）

- 「時間層シリーズ」については、インストールマニュアルが完成し、岩井不在でもインストールができるようになったが、将来的な作品保存や修復方針がまだまとめられていない。代表作品である《映像装置としてのピアノ》も同様に、インストールおよび修復計画をまとめる必要がある。
- 関連資料のオンライン公開について検討する段階であるが、堅牢性のある適切なプラットフォームが選定できていない。

（文化的・社会的・経済的な意義）

- これまで、英語でも修復プロセスを公開してきた結果、英国の博士課程の学生から調査のための問い合わせがあった。海外での再評価も期待できる。
- アルスエレクトロニカでゴールデンニカを受賞したパフォーマンス作品《Music Plays Images X Images Play Music》をデジタル化した記録映像をもとに再現することできた。